

観光資源の最大活用に向けた観光改善アクションチェックリストの開発

順天堂大学大学院  
スポーツ健康科学研究科  
学籍番号：4119008  
氏名：甲斐 素子

**【目的】**

安全で快適な観光（地域イベント、スポーツ観戦、施設利用、等）を実現するためには、観光客のために観光地をデザインする参加型改善が有益である。そこで本研究では、観光を取り巻くステークホルダ（観光客、観光業者、行政、研究者、等）が国内観光地の参加型改善を行う際に使用する“観光改善アクションチェックリスト”を開発し、その有用性を評価することを目的とする。

**【方法】**

2017年～2019年に大学の学生実習として行った観光改善の既存データを利用し、チェックリスト領域と項目案を作成した。次に大学生28名（男性：17名、女性：11名）を対象に、既存データをもとに作成したチェックリストの領域・項目案修正の為にフィールド調査を行い、修正案を収集した。実習終了後、項目への感想を記述したチェックリストを回収した。最後に、過去の実習参加者70名（男性：44名、女性：26名）を対象に項目の有用性と適用範囲を明らかにするための質問票調査を実施した。質問票の構成は人口統計学的項目とチェックリストの使い易さの項目（11項目、自由記述）、有効な使用方法に関する項目（29項目、自由記述）である。

**【結果】**

本研究の結果、8領域、全48項目のアクションチェックリストを作成した：A 標識・看板、B 安全対策（6項目）、C 衛生管理（6項目）、D ユニバーサルデザイン（6項目）、E ICTの活用（6項目）、F 観光客への配慮（6項目）、G 高揚感の喚起（6項目）、H ふれあい（6項目）。フィールド調査と質問票調査の結果は8領域の適用可能範囲、チェックリスト項目の妥当性と有用性を指示するものであった。

**【結論】**

本研究は観光改善で使用する“観光改善アクションチェックリスト”を新たなツールとして開発し、その妥当性と有用性を示した。このツールを使用することで、観光改善のためのフィールドワークの効率性と生産性を高められるものと期待される。